

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	30件	38,000円	210件	235,827円
財団	2件	22,000円	9件	106,000円
バネファクター	0件	0円	0件	0円
米山	0件	0円	2件	25,000円

本日のプログラム

<会長卓話>

小塚会長

■大規模災害に備えて

本日の「大規模災害に備えて」は長年の私のテーマです。本日の卓話を通じて、百合丘RCでもなにかできることはないか、ということをごさまで考えていただく機会になればと思ってお話させていただきます。

県主導で大規模災害に対し、みんなで備える施策として「かながわシェイクアウト～いっせい防災行動訓練～」のパンフレットがございます。これは事業体・家庭で災害に向けてその気になって訓練を実施しようというものです。防災に向けて新しく第一歩を踏み出した非常にいい運動が始まったと思います。卓話の資料として入れさせていただきます。

関東大震災を踏まえて9月1日は防災の日です。関東大震災70年説というものもあります。未だおきてはいませんが、日ごろから、いつくるか分からないものに対して、心構え・準備しておくのが大事です。しかし、一体何を準備すればよいのでしょうか。それは東日本大震災の経験を通じて思いつく事を、バージョンアップしていくことに尽きるのではないのでしょうか。県や市に委ねるのも大事なこともかもしれませんが、やはり「わが身はわが身で守る」ことが大原則になります。世の中の考え方もだいぶ変わってきていますし、それに伴い様々な取組みが必要になります。

今回このテーマで卓話をしようと思ったのは、25年前に病院の企画設計時に「災害医療はどうあるべきか」という分野でかかわったことに起因します。当時、日本では「トリアージ(選別医療)などはもつての他」という風潮があり、ドクターヘリは夢のまた夢、というくらいに遅れていました。近年では、ドラマでも取り上げられるようになったくらいに、この分野も進んできました。しかし、それでも実際に災害が起こるとまだまだ色々不足していると実感します。その経験から生徒を預かる身として、こういった場合どうしたらよいか、に早くから取り組んでまいりました。その中で学校としては市と一時避難場所として協定を結びました。3・11が起きた事で県・市・地区、全ての住民で取組むということがようやく進んできた気がします。

東日本大震災の日、学校では大混乱が起きました。

いわゆる帰宅困難です。2つの幼稚園は別々の行動になり、小学校においては保護者が深夜まで迎えに来たり、中高においては、安否情報をメールで配信し、個人の選択に任せました。中高はもともと災害の際の手続きを話していたことと、安否情報が功を奏しました。

在学時に災害が起きた時は、学校にいたことが大切だと思います。そのためにはきちんと滞留できる備蓄をしなければならないことを痛感しました。生徒だけでなく周辺住民にも対応できるように4,000人分を備える災害備蓄倉庫を施工しました。

具体的に桐光学園の取組みをご紹介します。日本の法律は地震が予知できるということを前提にできています。しかしそれは不可能だと思います。そこで当校では「自分の身は、自分で判断して自分で守りなさい」を基本に ●学校は安全に作っているので、在校中は学校にステイしなさい ●登下校中は各自で判断しなさい ●家ではそれぞれ家で考えましょう とこの3つをアナウンスしています。

幼稚園は保護者の判断ですが、保護者の方には無理をして迎えに来ないようにと度々伝えていますが、小学校は個人で判断できるように、集団で動けるように細かく教員の動きを規定しています。中高では、自分の安全が確保された際には、救助する立場として活動できることを想定して規定を作っております。個人レベルでも災害時にどうするのかの整理をするべきだと思います。様々な災害を想定して、できれば文書にして家庭や企業体でも準備することを提案します。

救急救命士の講習に代わる活動がロータリーとしてなにかできるのではないかと思います。皆様それぞれその道のエキスパートですので、大規模災害時にそれぞれの職を生かした行動を考えていければと思います。緊急時には人とのつながりで何かができるはずで、是非広域災害を想定した備えを考えていきましょう。



<クラブ協議会>

第3グループガバナー補佐片寄優子様にご参加いただき、8階の会場でクラブ協議会が行われました。

